

露頭の風景 写真家の視点

斉藤 麻子

市の天然記念物に指定されているという露頭ですが、真上には道路が走る為に日中でも薄暗い川の護岸にひっそりと佇んでいました。間近で露頭を見てみようと川底まで下りてみると、ひんやりとした水の感触が長靴ごしにも感じられ、普段歩いている場所が自分の背丈よりも高い場所に変わりました。日常からは逸脱したその自分の立位置に高揚感を味わいながら、一対一で露頭と対峙すると、ほとんど人通りもないこの場所でいったいどうして誰の為にまわりをコンクリートで囲まれ、落書きまでされて顔を出しているのかと、おかしさばかりが込みあげてきました。

忘れ去られたような場所と控えめにも確かに存在している露頭のさまは、そのまま人と大地の関係性を表しているようにも感じられました。なんの変哲もない場所ですが、川の反対側には山紫陽花<sup>やまあじさい</sup>が咲き誇り、静謐<sup>せいひつ</sup>とした空間に身を置くことは、東京から足を運ぶ私にとって贅沢なことでした。また光と影の関係で快晴、曇天、雨天の日と幾度となく撮影をし直した写真家泣かせの場所でもありますが、それでもあまり苦にならないのは、そこへ行けば変わらずに露頭が存在しているという安心感と再会した時の懐かしさが大きいのだと思います。

地質屋の視点

及川 輝樹

三浦半島ならびに房総半島には葉山-嶺岡隆起帯<sup>みねおか</sup>とよばれる、周囲より古く、様々な岩石を含み強く変形した地層が帯状に分布しています。この隆起帯をつくる地層は、三浦半島では約2300～1600万年前の前期中新世に付加した付加体からなる葉山層群(または葉山ユニット)とよばれる地層からなります。表紙写真の横須賀市天然記念物に指定された露頭は、その付加体中に含まれた枕状溶岩です。

枕状溶岩は、ソーセージや枕のような形をした岩が積み重なったように見える溶岩で、一つ一つの枕の周囲は結晶が少ないガラス質の急冷縁によって縁どられています。また、放射状に見える割れ目(放射状節理)ができることも特徴です。この露頭の枕状溶岩は、破片状に割れているも

のもありますが、ガラス質の急冷縁や放射状節理が認められ、枕状溶岩の特徴をよく示しています。枕状溶岩は水中に流れ出て固まった溶岩であることが、観察からもわかっています。熱い溶岩が水中で急激に冷やされ、ガラスの急冷縁の殻に覆われた“枕”ができ、その殻が破れ中から熱く溶けた溶岩が流れ出て次の“枕”をつくり、といったことを繰り返してできたものです。しかし、この露頭の枕状溶岩が接する泥岩には溶岩による熱の影響が認められません。そのため、一度どこかで流れ出て固まった枕状溶岩が、壊れて移動し周囲の泥岩に取り込まれたものであると考えられています。つまり、かつて海底で活動した火山の一部がブロックとして付加体中に取り込まれたものです。

文 献

江藤哲人・矢崎清貫・卜部厚志・磯部一洋(1998) 横須賀地域の地質。地域地質研究報告(5万分の1図幅), 地質調査所, 128p.

高橋雅紀(2008) 3.3.3 三浦半島。日本地方地質誌3 関東地方, 地質学会編, 朝倉書店, 東京, 187-193.

5万分の1地質図「横須賀」(江藤ほか, 1998)の一部に加筆。Kn, Ys, Yaが葉山層群。Sp, Bは、それに含まれる蛇紋岩・角閃岩と玄武岩。Sy, Zm, Zsは三浦層群返子層。

